

【就職活動にかかるお金 2021年卒でどう変化した？】

平均金額は約4万円減少。
オンライン化が進み、交通費を中心に学生の費用負担が減少

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

コロナ禍で就職活動プロセスのWeb化が進み、金銭的な負担は減少



所長 増本 全

今回は学生が就職活動に使用した金額についてレポートします。2021年卒学生が6月12日時点で就職活動に使用した金額は、平均して88,923円でした。これは、2020年卒の128,890円と比べて約4万円少なくなっています。地域別に見ると、2020年卒と2021年卒で最も大きく減少したのは「九州」で64,272円低くなりました。各項目別に見ると、最も減少したのは「交通費」で2020年卒と比べて23,900円低くなりました。学生が実施した活動の中で「Web上での説明会」、「Web上での面接」が増えていることから、就職活動の形式が2021年卒で変化したことが、就職活動にかかる金額にも影響を与えたと考えられます。新型コロナウイルス感染症により、2021年卒の就職活動は大きく変化しました。2022年卒も今後の環境変化次第で、オンライン化等の動きは一層進むことが想定されます。今年、学生と企業はさまざまなことを経験する中で、慣れてきたり、工夫しながらお互いを理解しようと努めています。今後も変化が起こり続ける中で、学生と企業のよりよい繋がり方に注視して発信していきたいと考えています。

就職活動全体にかかった平均金額の比較

大学生_全体（就職志望者のうち就職活動に「1円」以上使用した学生/実数回答）※大学院生除く
(円)

	就職活動全体にかかった平均金額		差 (①-②)	
	①2021年卒 (2020年6月12日時点)	②2020年卒 (2019年7月1日時点)		
全国	88,923	128,890	-39,967	
地域別	北海道・東北	94,468	140,861	-46,393
	関東	81,833	117,374	-35,541
	中部	83,776	132,900	-49,124
	近畿	97,263	131,201	-33,938
	中国・四国	116,654	139,967	-23,313
	九州	92,717	156,989	-64,272

本件に関する
お問合せ先

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL：03-3211-7117 MAIL：kouho@waku-2.com

就職活動費用の内訳

全項目で就職活動費用は減額

- ・2021年卒と2020年卒を比較すると平均金額は全項目で下がっており、最も下がったのは「交通費」25,567円で、2020年卒に比べ-23,900円となった。
- ・2021年卒と2020年卒を比較すると使用率が最も下がったのは「飲食費」66.4%で、2020年卒に比べ-20.9ポイントとなった。

就職活動費用の内訳

大学生_全体（平均金額の集計対象：各項目で「1円」以上使用した学生 / 実数回答）※大学院生除く

（使用率：「1円」以上使用した学生 / それぞれ単一回答）

※ 項目ごとの平均額のため、各項目の合計は総額とは一致しない

（平均金額：円 使用率：% 使用率の差：ポイント）

		交通費	被服費	宿泊費	飲食費	書籍費	公務員試験 対策費	スキルアップ 費用
n	2021年卒	699	694	112	519	475	86	224
	2020年卒	1367	1205	286	1215	878	152	400
平均金額	①2021年卒	25,567	34,360	22,467	6,957	4,913	93,204	17,398
	②2020年卒	49,467	36,869	27,059	12,488	5,697	105,195	23,847
	①-②	-23,900	-2,509	-4,592	-5,531	-784	-11,991	-6,449
使用率	①2021年卒	89.4	88.7	14.3	66.4	60.7	11.0	28.6
	②2020年卒	98.2	86.6	20.5	87.3	63.1	10.9	28.7
	①-②	-8.8	2.1	-6.2	-20.9	-2.4	0.1	-0.1

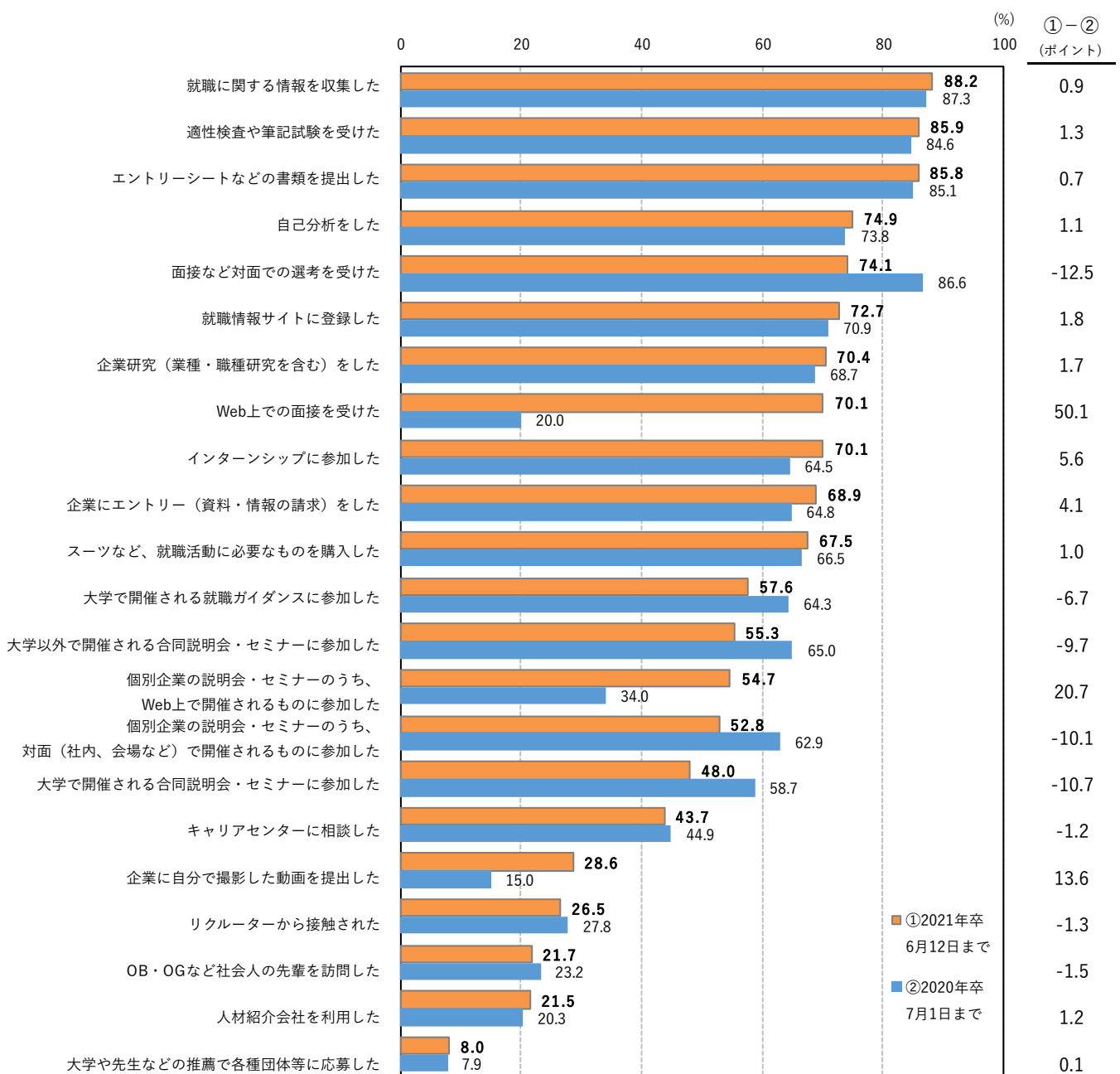
今までに実施した活動

対面選考は減少しWeb選考は増加

- ・2021年卒6月12日時点と2020年卒7月1日時点の「今までに実施した活動」を比べた。
- ・「面接など対面での選考を受けた」は2021年卒の実施率は74.1%で2020年卒に比べ-12.5ポイントとなった。
- ・「Web上での面接を受けた」は2021年卒の実施率は70.1%で2020年卒に比べ+50.1ポイント、「個別企業の説明会・セミナーのうち、Web上で開催されるものに参加した」は2021年卒の実施率は54.7%で2020年卒に比べ+20.7ポイントとなった。

今までに実施した活動

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答） ※大学院生除く



就職活動に対する考えや感想

Web選考による金銭的負担軽減の声

・「コロナ禍によって就職活動がオンライン中心となり、地方に住む学生としては活動が行いやすくなった。金銭的負担も少なく、数多くの企業と接触機会を持つことができた」、「Web上での選考がほとんどであったため、金銭的・時間的な負担が軽減され、地方学生と都市学生の就職に関する格差が緩和されたように思う」などの金銭面での負担軽減についての声があがっている。

就職活動に対する考えや感想

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/自由回答） ※大学院生除く

コメント
今回のコロナ禍によって就職活動がオンライン中心となり、地方に住む学生としてはむしろ活動が行いやすくなった。金銭的負担も少なく、数多くの企業と接触機会を持つことができた。また、企業側の状況に合わせた意思決定の迅速さを量ることができた。やはり最終、あるいはその前の面接まではオンラインでの活動を中心としても良いのではないだろうか。学生としては企業が交通費を負担してでも面接したいと思う段階までオンラインで進めることで金銭的負担を減らすことができる、というのは重要。
Webの面接が増えたことで戸惑いはあったが、交通費や時間をかけて会社へ向かうことが少なくなったので金銭的にも助かった部分は大きい。
前年度に活動をしていた先輩たちとは異なり、Web上での選考がほとんどであったため、金銭的・時間的な負担が軽減され、地方学生と都市学生の就職に関する格差が緩和されたように思う。今後もこの方式で進んでほしいと願う。
Web説明会やWeb面接の導入により、時間やお金がかかなり節約できたと感じる。

※「就職活動費用」に関するコメントを抜粋

データ集

各活動の実施率（地域別）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答） ※大学院生除く

活動実施率(%)	2021年卒							
	関東		中部		近畿		その他	
	n=358		n=136		n=158		n=163	
就職に関する情報を収集した	87.1%	(-1.9)	87.0%	(-3.4)	88.6%	(1.8)	91.1%	(9.3)
OB・OGなど社会人の先輩を訪問した	28.3%	(-0.4)	17.7%	(-2.4)	18.5%	(-4.5)	13.8%	(-0.9)
リクレーターから接触された	30.1%	(-0.2)	26.1%	(4.5)	29.7%	(-2.5)	15.9%	(-7.3)
就職情報サイトに登録した	71.9%	(1.4)	71.2%	(-4.6)	76.3%	(2.5)	72.1%	(8.0)
企業にエントリー(資料・情報の請求)をした	71.2%	(3.4)	62.0%	(-0.6)	69.8%	(5.8)	69.1%	(7.7)
人材紹介会社を利用した	24.6%	(-1.9)	13.9%	(-0.6)	23.8%	(2.1)	19.0%	(7.7)
大学で開催される就職ガイダンスに参加した	57.2%	(-4.9)	52.4%	(-19.2)	62.3%	(-3.2)	58.3%	(-2.7)
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	10.1%	(0.8)	4.9%	(-4.6)	7.4%	(1.4)	6.7%	(1.0)
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加した	48.8%	(-9.4)	48.5%	(-21.0)	52.0%	(-6.3)	42.1%	(-8.2)
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加した	53.1%	(-11.0)	53.4%	(-14.5)	62.6%	(-2.3)	54.8%	(-9.5)
個別企業の説明会・セミナーのうち、 対面(社内、会場など)で開催されるものに参加した	53.0%	(-9.1)	48.1%	(-17.6)	58.6%	(-4.1)	50.6%	(-11.7)
個別企業の説明会・セミナーのうち、 Web上で開催されるものに参加した	54.7%	(14.3)	43.2%	(18.0)	63.2%	(27.4)	56.0%	(29.1)
適性検査や筆記試験を受けた	87.3%	(2.5)	79.7%	(-7.9)	87.5%	(4.2)	86.6%	(3.6)
エントリーシートなどの書類を提出した	88.1%	(3.7)	82.2%	(-3.6)	86.1%	(0.2)	83.6%	(-1.6)
面接など対面での選考を受けた	74.1%	(-11.7)	78.9%	(-10.1)	76.0%	(-10.7)	68.2%	(-17.9)
Web上での面接を受けた	74.2%	(52.7)	62.1%	(47.8)	77.3%	(57.3)	60.7%	(38.6)
企業に自分で撮影した動画を提出した	35.2%	(16.0)	25.0%	(19.6)	27.1%	(8.4)	18.3%	(7.2)
インターンシップに参加した	69.7%	(2.1)	67.6%	(0.8)	73.9%	(8.5)	69.3%	(14.2)
企業研究(業種・職種研究を含む)をした	71.5%	(1.2)	64.1%	(-3.5)	73.0%	(4.1)	70.7%	(4.7)
自己分析をした	76.0%	(1.4)	71.2%	(-3.1)	77.0%	(2.1)	73.5%	(3.0)
スーツなど、就職活動に必要なものを購入した	68.6%	(3.4)	66.8%	(-2.7)	65.5%	(-3.7)	67.7%	(4.4)
キャリアセンターに相談した	43.9%	(-2.7)	47.1%	(-5.6)	48.9%	(6.7)	35.3%	(-2.0)

※ () 内は2020年卒との差

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2021年卒：2020年6月12日時点

調査対象 | 2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,198人（内訳：大学生3,325人/大学院生873人）

調査期間 | 2020年6月12日～6月19日

集計対象 | 大学生 915人/大学院生 377人

※リクナビ：株式会社リクルートキャリアが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2021/>

2020年卒：2019年7月1日時点

調査対象 | 2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生6,395人（内訳：大学生5,267人/大学院生1,128人）

調査期間 | 2019年7月1日～7月8日

集計対象 | 大学生 1,584人/大学院生 503人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況をもとに、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

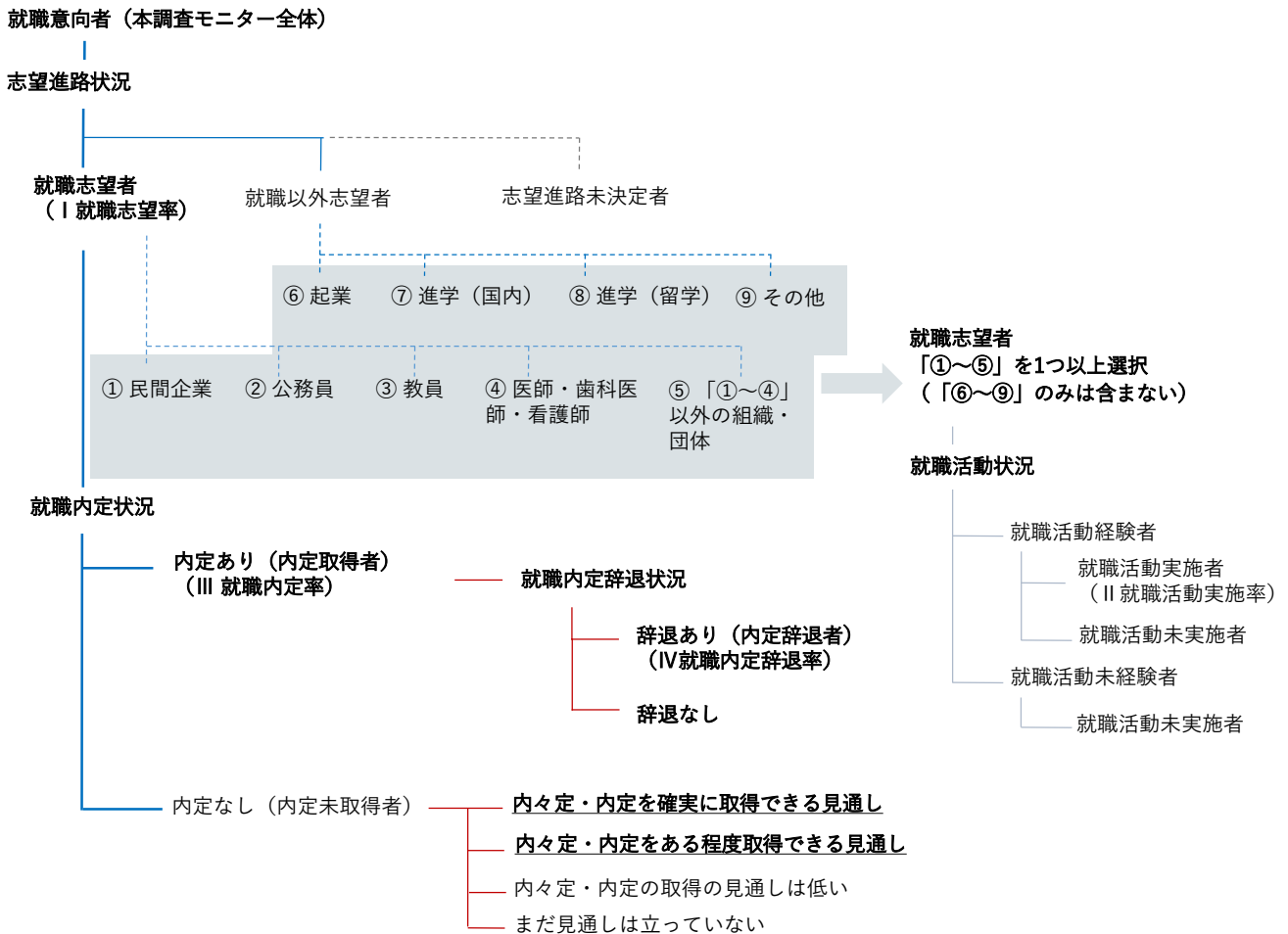
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある

就職志望者から見た内定状況の構図



<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験のある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

- 北海道・東北 = 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東 = 東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- 中部 = 静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- 近畿 = 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- 中国・四国 = 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州 = 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者